

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(原典の表記を一部改めたところがあります。)

いまでもこそ、竹炭のすばらしい力、大きな可能性のとりこになっているわたしですが、この竹炭との出会いはある日、突然やってきました。

I、それ以前から、竹林が利用されず、里山で広がり、社会的な問題になっていること、また、竹炭などの炭がたくさんの水を含むことや、水の汚れをきれいにしてくれることを知らないわけではありませんでした。いまから七年前の暑い夏の日、ある会社の社長さんがわたしに、たくさん竹炭を使用する手立^①てはないでしょうかと、たずねてきました。その方は、自分たちはタイで竹炭を大量につくる事業を進めているが、利用先に悩んでいると話されました。

その時、ちょうどテレビで、屋上緑化でクーラーなしでも過ごせます、しかし、その設備、とくに水やりの設備に困っています、という報道が流れていました。わたしは、「そうだ、屋上緑化の土壌^{どじょう}に竹炭を入れれば、ひよっとして、水やりは楽になる、いらなくなる」とひらめいたのでした。これが、はじまりで、さっそく屋上緑化の土壌に竹炭を入れた実験を開始したというわけです。

忘れ去られ、見過ごされてきた竹炭が、そのふしぎな力で、わたしたちの身の回りの A ばかりか、地球全体の環境問題の解決、対策におどろくほどの威力^{いりよく}を発揮する可能性を

人間がいまなお、そして永遠に依存^{いぞん}せずには生きていけない自然のシステムと、その力を理解し、そのシステムを尊重し、それに沿^そった科学技術の進歩と発展をとげることの必要性を、いま一度かみしめたいものです。少なくとも、いかに自然と共生しながら、自然の素材を利用してゆくのかが、二十一世紀のもっともたいせつな課題のひとつではないでしょうか。そんなことを、物言わない黒い竹炭がわたしたちに語りかけているように思うのは、わたしの思いちがいでしょうか？

(中根 周歩『竹炭のふしぎな力』)

問一 [] I～IIIに入れるのに最もふさわしい語を次のア～カから選び、記号で答えなさい。

- ア しかし イ しかも ウ その上
エ たとえば オ ところが カ もちろん

問二 「自然というのはすごいですね。」の一文を本文中に補う場合、ア～エのどこに入れるのが最もふさわしいですか。記号で答えなさい。

問三 [] A～Dに入れるのに最もふさわしい語を本文中の語句を用いて補いなさい。

秘めていることを、みなさんと見てきました。これらは、すべて自然の恵みであり、自然の力でつくられた、自然の素材そのもののなのです。ア

II、わたしたちは、このような自然の力、自然の恵み、自然のしくみに注意を払ってきたでしょうか。それをたいせつに尊重して、したがってきたでしょうか。イ

Bの発展がわたしたちの生活を豊かに、便利にしてくれるという考えは、けっしてまちがいはないでしょう。しかし、科学技術がわたしたちにもたらす恩恵^{おんけい}は、わたしたちの生活の一部にしか過ぎないのです。わたしたちは、自らの生活の基盤^{きばん}である C を破壊することはできても、その進歩した、また進歩するであろう科学技術でもってしても、その生態系^{せいかい}を創^{つく}ることも、再生することもできないのが現実なのです。ウ

III、竹林がおこなう光合成のしくみの一部は解明されてきましたが、人間の科学技術では、D はできません。竹炭と同等の保水力、水質浄化力^{じょうけりょく}、植物生育促進力^{そくしんりょく}を同時にもち資材を、いまの科学技術ではつくることができないのも現実でしょう。エ

いままでお話ししてきた竹炭のすばらしい力、ふしぎな力は、現代のわたしたちに自然のすばらしさ、有効さを改めて示してくれるとともに、科学技術の力で何でもできる、何でもつくれるという人間の過信^{さうじん}、錯覚^{さくかく}を戒^{いまし}めているのではないのでしょうか。

問四 線①「手立て」の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 手順 イ 手段 ウ 手間 エ 手元

問五 線②「水やりは楽になる」と筆者がひらめいたのはなぜですか。次の [] に当てはまるように本文から十六字で抜き出しなさい。

[] から。

問六 筆者が 線③「地球全体の環境問題の解決、対策におどろくほどの威力を発揮する」と考えるのは竹炭のどのような性質からですか。次の [] に当てはまるように本文から十四字で抜き出しなさい。

竹炭の [] 性質。

問七 筆者が——線④「二十一世紀のもっともたいせつな

課題」と考えるのにふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間は科学技術の力で何でもできる、何でもつくれるので、このまま自信を持って進んでゆくこと。
イ 自然のシステムとその力を理解し、それに依存して生きてゆくこと。

ウ 自然のシステムを尊重し、それに沿った科学技術の進歩と発展をとげること。

エ 自然と共生しながら、自然の素材を利用してゆくこと。

問八 ——線⑤「わたしの思いちがいでしょうか？」に込

められた筆者の思いとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 「思いちがい」と思っている。

イ 「思いちがい」と思っていない。

ウ 「思いちがい」とも「思いちがいでない」とも思っていない。

エ 「思いちがい」とも「思いちがいでない」ともどちらとも言えない。

「なにが？」

「うん」

ぼくの頭の中に、東京の五年三組の教室が浮かんだ。サノタマミの思いっきり変な格好とか、すごい叫び声とか。

目の前のサノタマミは、あのときほど変じゃなかった。それでも髪の毛は染めているのか茶色っぽかったし、大人っぽく見える。しばらく会わない間に背がすごく伸びていて、ちょっと中学生みたいな感じだった。

「この髪？」

サノタマミは、ぼくの視線に気づいたのか、両手で頭のお団子に触った。

「違うよ。そうじゃなくて、なんかさ、教室でギャーってなったとき、やめたら、とか言っちゃってさ。ほんとは、やめたら、じゃなくて、いっしょにギャーって、言いたかったのにさ、それなのに」

「やめたら、じゃなくて、やめろよ、だよ」

サノタマミの顔は、急に拗ねたみたいにゆがんだ。

「え？」

「やめたら、じゃなくて、やめろよって言ったんだよ、星野くんは」

「そうだったっけ？」

「そうよ。②その二つは大きく違うんだから」

「そうか」

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(ここまでのあらすじ)

東京の小学五年生である星野大輔は、ある事情により二学期の間だけ広島県福山市内の海辺の小学校に転校することになった。一方、佐野珠美は大輔と幼稚園以来の幼なじみであり、同じクラスで共に学級委員としてクラスの取りまとめをしたが、突然、一学期の途中で愛媛県今治市内の小学校へ転校してしまった。そこで大輔は珠美に会うために途中までは自転車で、その後は出会った人々の協力によって車に乗せられて福山から今治まではるばるやって来た。

「久しぶり」

と、ぼくは言った。

「久しぶり」

と、サノタマミも言った。

①4WDのお兄さんは、じゃあね、と手を振っていなくなった。ぼくたちは、今治城の脇の公園みたいなところに、二人きりになった。

「元気だった？」

「まあね。それより、どうして星野くんがこんなところに？」
手紙には、ぼくがいま、松永のおばあちゃんちに住んでいることも、今治がすごく近いことがわかったことも書いておいたんだけど、それでもサノタマミはなんだか、②納得できないみたいだった。

「a」

「そうだよ。顔の表情とかも、すごく冷たかったよ。ばかなことやってんじゃねーよって感じだったよ」

そこまで言わなくてもな、と、ぼくは思っ、なにを言ったらいいかわかんなくなって黙った。そうしたらサノタマミは、にやっと笑った。

「なに、笑ってんの？」

「いま、星野くん、頭に來た？」

「え？」

「怒った？ ちょっと」

「b」

正直に言う、今度はサノタマミったら、またまたすごくこわい顔になって、

「だって、そうだったじゃない。ほんとのことだもの」
と、ぼくをにらんだ。

③ふざけてんのか、本気なのか、わかりやしない。

サノタマミは前からそういうところがあって、みんなといっしょにいるときはおとなしいんだけど、二人きりになると、ああ言えばこう言う、みたいな性格なので、ちょっとめんどくさい。というか、ぼくは「I」ことになる。そのとき、頭の隅にチラッと、あのわかりやすいオザヒロの顔が浮かんできたので、ぼくは自分でも驚いた。

「ごめん。ずっと気になってたんだ。ごめんねって言わないうちに、引越しちゃったからさ」

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

サノタマミは、けっこう驚いたみたいだった。驚いた理由は、ぼくにもわかった。

サノタマミとは幼稚園からの長いつきあいだから、何度もケンカしてる。だけど、あっちが素直じゃないから、こっちも意地っ張りになっちゃって、おたがいに素直にごめんとか言ったことがない。

謝ろうと思っても、かえってケンカになったりして、それを何回か繰り返して、気がつくとな元に戻って仲良くしてるの
がいつものことだった。

だけど、ぼくだって、こんなたいへんな思いまでして、自転車に乗って今治まで来て、目的も遂げずに帰るわけにはいかないじゃないか。そう、しょっちゅう、来られるわけじゃないんだしさ。そこそこを、サノタマミはわかってないよ。ぼくたちにはもう、ああいう時間がないんだ。

前みたいに、毎日絶交して、毎日仲直りするみたいな時間は。

「星野くんが、ごめんて言う必要、ないんじゃないの？」星野くん、なんにも悪いことしてないんだから」

サノタマミは思いがけず、Ⅱ口調でそう言った。

「え？　だって、怒ってたでしょ」

どうでもいいことなんだけど、小さいころは、サノタマミのことを「タミちゃん」と呼んでいた。三年生くらいまではずっとそうで、それがちょっと四年くらいから呼びにくくなって、サノのほうは、「ダイちゃん」から「星野くん」に

「え？」

「パパの仕事の関係で、引っ越しが決まってたから、もういや、あたしはチョークでつけた印の人みたいにする必要ないんだって思ったわけよ」

「じゃあ、ぼくのせいで今治に引っ越しちゃったわけじゃないの？」

「そんなこと思ってたの？　違うよ。転校するまで猫かぶってられなかったの。あのまんまいたら、そうね、どう言ったらいいんだろう。星野くんとか、クラスのほかの人には見えても、わたしにはわたしが見えないで小さくなって消えちゃいそうな感じがしたの。息が苦しくて、あっぱあっぱしてるみたいな感じ。わかんないかもしれないけど」

「わかるよ」

と、ぼくは答えて、しばらく二人それぞれの頭の中で、あのころのことを思い浮かべた。

というか、ほんとに窒息して呼吸困難になったの、ぼくだからね。

それこそ、サノタマミは引っ越しちゃってて、知らないんだけど。

d

そうきくと、サノタマミはなんでだか急に頭のとっぺんのお団子をほどいて、ゆらゆらゆらっと頭を振った。それから両手をクシみたいにして、長い髪の毛をとかしたんだけど、

さっさと変えちゃったんだけど、ぼくはどう呼んだらいいかわからないままに、ずっと名前を呼ばないでいる。

「冷静に考えれば、わたしもそう思うんだけど、あのころは冷静じゃなかったのね」

「あ、そうなんだ？」

「うん、そう。なんだかねえ、ギャーって言わないと、自分がどっかに消えちゃいそうな気がしたの。髪の毛もまっ黄色にしくちゃ、大きな声でわめかなくちゃ、自分が小さく、小さく、小さくなって、しまいいはゴミみたいになって、教室からホウキで掃き出されちゃいそうな気がしたの」

「そんなこと、あるわけじゃない。学級委員で、ピアノがうまくて、成績もいいのに」

「そういうの、関係あるかな？」

「あるでしょう。もっと、目立たないやつ、いっぱいいるよ。どっかに消えちゃいそうなの、いっぱいいるでしょ、教室ってそこには」

c

「え？」

「教室っていやだね、消えちゃいそうなのがいっぱいいるなんて。一学期の一日目が始まると、先生がぐるっと教室を見渡して、こいつはクラス委員、こいつはお調子者、こいつは乱暴者、こころへんはその他おおぜいって、見えないチョークで印つけるみたいな感じがするもの。なんだかそういうのが、やんなっちゃったの。引っ越しが決まってたから」

肩の下まである茶色の髪の毛はゆるいウェーブがかかって、ますますサノタマミを大人っぽく見せた。

「だいじょうぶ。だいぶ、イメチェンしたから」

ぼくは、うっかり、見とれてしまった。

目の前のサノタマミは、たしかにぼくの知ってる女の子とは違う子みたいだった。

(中島 京子^{注2}『ハブテトル　ハブテトラン』)

注1　4WD……四輪駆動車

注2　ハブテトル……^{びんて}備後(旧国名の一つ。今の広島県の一部)弁で「すねている、むくれている」という意味。「ハブテトラン」はその否定形。

問一

aとdに入れるのに最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア　いやだね。それ

イ　うーんと、そうね。ちょっとね

ウ　いまは、だいじょうぶなの？

エ　ずっと、気になってたんだ

問二

□ I・IIに入れることばとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

I				II			
ア	はらはらする	イ	どきどきする	ア	しみじみした	イ	さっぱりした
ウ	おろおろする	エ	ふらふらする	ウ	ほっとした	エ	はっとした

問三

線①「納得できないみたいだった」とありますが、サノタミが納得できない理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 大輔とはケンカばかりしていて気が合わなかったのに、自分の嫌いな人と直接会わねばならなくなっただから。
- イ 大輔はいつもまじめな優等生だったので、自分に会うために思い切った行動をするとはとても思えなかったから。
- ウ 大輔はとても親に甘えん坊だったので、親から離れておばあちゃんと住んでいることが信じられなかったから。
- エ 大輔にとっては都会で暮らすことが一番ふさわしいと思っていたのに、地方に現れたことが夢のようだったから。

問七

線⑤「四年くらいから呼びにくくなって」とありますが、親しく呼びにくくなった理由を二十字以内で書きなさい。ただし、句読点も字数に含めます。

問八

線⑥「急に頭のとっぺんのお団子をほどいて、ゆらゆらゆらっと頭を振った」というサノタミの行為の説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア いろんな髪型の変化を短い時間で整えられることを示して、楽しんで生きているということ。
- イ きゅくつな規則やきまりなどを全く無視して、あえて逆らって生きているということ。
- ウ 自分を偽って無理に我慢したりせずに、自分の思い通りにしっかり生きているということ。
- エ 地味でひかえめなのはもういやなので、服や髪にお金をかけて派手に生きているということ。

問四

線②「その二つは大きく違うんだから」とありますが、A「やめたら」とB「やめろよ」とではどのように違いますか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア Aは相手の行為を賛成しているが、Bは全く反対している感じがする。
- イ Aは相手の行為に反対しているが、Bは全く賛成している感じがする。
- ウ Aは相手を冷たくさげすむが、Bは温かい思いやりの感じがする。
- エ Aは相手へ温かい思いやりがあるが、Bは冷たく見下す感じがする。

問五

線③「ふざけてんのか、本気なのか、わかりやしない」の部分に表されたサノタミの性格の特色を、本文から十字以内で抜き出さない。ただし、句読点も字数に含めます。

問六

線④「目的」とありますが、大輔は何を得るのを目的として今治まで来たのか、その説明となる部分を本文から二十字以内で抜き出さない。ただし、句読点も字数に含めます。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(原典の表記を一部改めたところがあります。)

作家の村上龍^{りゅう}さんが五年前に著した『13歳のハローワーク』を読み返した。あらゆる職業を紹介するにあたり、著者は子供たちに^aトク¹。「嫌いなことをいやいやながらやるよりも、好きで好きでしょうがないことをやるほうがいいに決まっています」

そして、こうジョ^bゲン²する。「十三歳は自由と可能性を持っています。だからどうしても世界が巨大に映^cってしまっ、不安とまどいを覚えるのです」。村上さんによれば、満ち足りた人生の出発点は好奇心だ。

I 横浜市の中学一年生、山崎一哉君が気象予報士に合格した。
アこそ物のイなれという通り、幼時から図鑑を眺^dめるのが好きで、面白い雲を見つけたのが楽しみという。最年少キロク^dの十三歳七カ月にして「好き」と「上手」を重ねてみせた。

II 一九九四年に始まった予報士の試験に、年齢制限はない。合格率は平均六パーセントの狭^eきAで、山崎君は小五から四度目の挑戦^fだった。抱負も「台風や大雨に慌^{あわ}てない予報士になりたい」とBに入る。

III 生ある限り挑^{いど}める最高齢のキロクと違い、最年少のほうは歳月が奪^うい去る。もっとも、好奇^{きう}の的^{てき}を絞^{しぼ}った理科少年にす

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

れば、キロクなど **C** の次だろう。いつの日か「上手」を仕事につなげてもらいたい。

先々の予想は気象予報士の勝負どころだが、さすがの山崎君も十年後の自分は見通せまい。^②「人生の朝方」は発達した好奇心で気圧配置が安定せず、空模様に一喜一憂させられるものだ。予想が悪い方に外れたら、やり直せばいい。^③十代の天気図はうらやましいことに、夢も悩みも鉛筆で描かれている。

(朝日新聞「天声人語」平成二十一年三月九日掲載)

問一 線 a e のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで書きなさい。

a トク b ジョゲン c 映る
d キロク e 的

問二 **A C** に入れるのに最もふさわしい語をそれぞれ次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

アー イ二 ウ三 エ道
オ門 カ家 キ窓 ク堂

ウ 好きなことをやれば好奇心がかきたてられて自分から積極的に物事に取り組み、その結果、充実した人生をおくることができるから。

エ 嫌いなことをして時間を過ごすよりも、好きなものだけをすることで限られた人生をより豊かなものにできるはずだから。

問七 線②は十代のどのような様子をたとえたものですか。最もふさわしいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 好奇心が盛んにかき立てられる時期であるため自分の進路選択を一つにしぼることが難しい十代の、いろいろと変わる状況に喜んだり悲しんだりする様子。

イ 未熟な時期であるために自らの将来をひとりで決定することができない十代の、親や友人の言動にふりまわされる様子。

ウ さまざまなことに関心があるため自身の方向性もなかなか定まらない十代の、周囲で起きる多くのことから影響を受ける様子。

エ 進路選択をおうせいな好奇心によっていろいろと迷う十代の、はっきりしない自分の将来像に悩まされる様子。

問三 線Ⅰの **A・イ** に入れるのに最もふさわしい語を本文から探して、書き抜きなさい。

問四 線Ⅱ「報」の総画数は何画ですか。また、この字の太字の部分は何画目ですか。それぞれ漢数字で答えなさい。

報↑

問五 線Ⅲに用いられた表現技法として正しいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 反復法 イ 倒置法 ウ 体言止め
エ 擬人法

問六 線①のように村上氏が語る理由として最もふさわしいものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 嫌いなことを無理じいされてしぶしぶやっても退屈なだけであり、自主性がないために上達が望めないから。

イ 好きなことをするほうがだれにとっても楽しいことであり、嫌いなことをするよりも人生にとって意味があるから。

問八 線③を次のように言いかえました。() に入る語句を九字以内で考えて答えなさい。

十代はまだ人生の出発点であり、その年代における将来の夢や失敗は大人の場合とは違って()。